

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホームゆめみの 1階たんぼほ		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10		
自己評価作成日	令和2年9月4日	評価結果市町村受理日	令和2年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000433-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に個別支援を多くとり入れ、『その人らしさ』を大切に、チーム全体で取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染対策の為、医療機関と連携を強化し、利用者様や職員の健康管理、感染予防に努めている。

新型コロナウイルス感染対策の為、面会や外出、外泊等を禁止している。禁止に際し、不安や混乱等ないよう、利用者様、ご家族様には、丁寧な説明と真摯な対応に努めている。また、地域の行事等への参加や運営推進会議の開催ができないため、質疑応答ができるようアンケート様式で資料と返信用封筒を送付するなど対応し、交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な新興住宅地の中にあり、住民の増加に伴い、近くに規模の大きい小学校や広々とした公園、南幌温泉、千歳川や農地が広がるのどかな環境にある。母体法人は英生会グループとして病院を中心にグループホーム、小規模多機能ホーム、介護老人施設、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、包括支援センターを運営し相互で得られた知識・技術を共有して質の向上に活かしている。事業所は1階2階からなる2ユニットで、行き来は自由に出来るようになっておりエレベーターを利用して別ユニットを訪ね利用者の気分転換にもなっている。小規模多機能ホームが併設され緊急時の一時避難場所としても利用できる。又、災害時には同じグループの介護老人施設が避難先になっており、事業所間・職員間の連携が多方面においてあり、協力体制が築けている。窓から見える庭は綺麗に手入れされており、花壇や小さな菜園、藤棚には山ブドウも生育し、視覚的にも美しく収穫を含め利用者の楽しみである。菜園で採れたトマトなどが食卓を飾り味覚と共に季節感を味わっている。母体が医療法人のため利用者の健康や感染症予防に注力しており、主治医や看護師との連携も密に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を詰所に掲示、各自の名札に携帯するなど、常に理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	法人理念、事業所理念に基づき、介護理念10か条によるケアを心がけて、現状に沿う内容であるかどうか話し合う機会を持つようになっている。又介護理念10か条が平易な言葉で活用しやすいことから、月毎に1か条ずつ取り上げ、理念を職員事務所に掲示しネームプレートに入れ、介護に取り組む指標としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様との散歩時などに、隣近所の方と気軽に挨拶を交わしたり、自治会や行事、地域活動に参加し、地域の方々と交流や日常的なつき合いができるよう努めている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、参加、交流等できていない。	小学校の学習発表会・運動会を見学に行く機会がある。事業所の祭りや自治会主催の祭りに行き来がある。利用者が外出に消極的な折は、外出や交流より家庭で家族と過ごすように穏やかな時間を優先することも大切と考えている。地域では両隣りとは顔なじみで親しく挨拶している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行っている夏祭りや避難訓練など、地域の方に協力して頂いている。利用者様と地域の方が直接触れ合う機会があり、グループホームの実情や認知症の人への理解と支援の方法などを知って頂いている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご家族様、地域役員の方、地域包括支援センター職員の方々に参加して頂いている。行事や委員会、日々の取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。今年度は、会議は開催せず、資料を送付し意見や質疑応答を書面で交わしている。	小規模多機能ホームとの合同で2ヶ月に1回開催し、自治会役員、地域包括支援センター職員、家族などが参加し、行事や日々の取り組み状況について報告や話し合いを行い、意見や助言をサービス向上に活かしている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為会議は開催せず、資料を送付し意見や質疑応答を書面で交わしている。会議内容は職員で共有し家族にも報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアプランや、利用者様への対応などについてわからない事があれば、電話や市役所に伺い相談確認している。	市への報告・連絡は電話・ファックスを利用するが、介護申請などは窓口を訪ね市の担当職員と顔を合わせる機会を持ち、相談には親身に対応してもらっている。防災対策の相談も行い助言には真摯に耳を傾けている。市や地域包括支援センターでの講演会などに参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ゆめみの身体拘束廃止マニュアル」・「身体的拘束等適正化のための指針」を、身体拘束廃止委員会が年度初めに確認、整備している。月1回委員会を開催し、内部研修会等で話し合い、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間は、安全と防犯のため玄関に施錠しているが、日中は施錠しておらず、誰もが自由に入出入りできるようにしている。	月1回身体拘束廃止委員会を開催し、何が拘束に当たるのかを念頭に話し合っている。外部研修にも参加し報告会で話し合いながら職員全体で共有している。身体拘束廃止マニュアル、身体拘束適正化のための指針を毎年見直している。年1回職員は虐待に関する振り返りを行い身体拘束をしないケアの実践につなげている。1階と2階の共有スペースにつながる入口の扉にはチャイムをつけているが、玄関は防犯を目的に夜間のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止法について学ぶことができるよう、外部研修等に参加している。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策で外部研修参加を中止しているため、身体拘束廃止委員会を中心に、ユニット会議や内部研修等で虐待防止に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者が一人で対応していたことが多く、必要な時に支援できる体制が万全ではなかったため、他職員も理解を深め対応できるよう、ユニット会議や内部研修等で話し合っている。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策の為、研修参加は中止している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時は、しっかり時間をとり事業所の理念やケアに対する取り組みなど、利用者様やご家族様の不安、疑問点を伺いながら、わかりやすい丁寧な説明を心がけている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の何気ない会話や表情等から、利用者様の思いや意向などの把握に努め、申し送りノート等で全職員で共有している。ご家族様等には、年2回の第3者アンケートの実施や面会時に意見、要望などを頂き、日々の支援や事業所の運営に活かすよう努めている。	利用者からは日々の会話や表情から思いや要望を汲み取っている。家族とは面会時やアンケートにより意見や要望を聞いて運営に反映させている。又、第三者アンケートとして夏祭り頃の1ヶ月に来訪した人すべてボランティアや祭りの手伝いも含め感想・要望など、意見を聞く機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や内部研修、カンファレンスなどの話し合いで、機会があるごとに職員の意見や不満、要望、提案などを聞くよう心掛けている。	管理者は話し易い環境を作り、面談を定期的に行うが、面談とあらたまるより日々一緒に介護の仕事をする中で色々な話ができて、様々なことが聞き取れている。機会をとらえ夜勤職員と管理者が1対1で話し合うこともあり、意見・悩みを聞き取ることに有効である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の急病や急な休みなどで、利用者様の生活のペースを乱すことがないように、柔軟な対応、職員の配置や人員の確保に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が各自の立場や経験等に応じた外部研修に参加し、向上心をもって働くことができるよう、年間で予定を立てている。研修後は、ユニット会議等で発表し、報告書はいつでも閲覧できるようにしている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、外部研修は中止。毎月テーマを決め、内部研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が集まる連絡会(あおいの会)には、新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加していないが、電話で、空室状況など情報交換している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった際には、ご本人様とご家族様に見学頂き、ご本人様のおかれている心身の現状や不安、困りごと、要望などの話をよく聴き、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際には、現状や、今困っている事、不安な事などを、ご家族様の立場に立ってゆっくり、しっかりと話を聴き、思いを受け止めるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、ご本人様とご家族様のそれぞれの思いや現状、不安、要望を聴き、早急に柔軟な対応ができるよう、隣接している小規模多機能の管理者やケアマネジャーに相談、連携しながら必要なサービス利用の調整等につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理などを一緒に行い、利用者様の楽しみや喜び、不安や悲しみなど、利用者様と職員がお互いに思いやり、感謝の気持ちを持つことのできる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時や電話で、利用者様の日々の暮らしの様子や出来事、気づいたことなどを細かく伝え、丁寧に対応している。その際、ご家族様の思いを聴きながら職員の思いを伝えるなど、共に利用者様を支えていく関係づくりを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は、キーパーソン以外のご家族様や、お孫様、知人の方々が、来訪しやすい雰囲気づくりに心がけている。現在、新型コロナウイルス感染予防対策の為、面会は禁止している。	月2回の訪問理美容を利用者が気に入りに楽しんで利用している。事業所の祭りには自治会の手伝いや参加があり、自治会の祭りに出かけ互いに行き来があり顔見知りの関係を築いている。学生時代の友人たちが訪ねて来ることもある。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、実施できていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係性については、職員間で情報を共有し、気の合う利用者様同士の散歩や食事の後片付けなど、職員も一緒に協力し行うことで、お互いに支え合えるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去された利用者様のお見舞いに行き、ご家族様の相談にのったり、電話や手紙等で、ご家族様との継続的な関係性づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉や表情などを観察し、真意を汲みとるよう心掛けている。意思疎通が困難な方には、ご家族様等から情報を頂き、ご本人様にとってどのように暮らす事が最良なのか検討している。	会話が困難な利用者もいるが、担当制を用いているため利用者のちょっとした変化にも気づきやすく、日々の会話や表情、動作から思いを汲み取り、情報は申し送りノートで共有している。会話が難しい利用者には二択質問にすることで回答を導く。家族から利用者の思いを聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り今までと同様の暮らしが継続できるよう、ご本人様、ご家族様からこれまでの生活歴等を伺い、支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、「その日」の心身状態や、できる事、できない事など、利用者様の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様から、意向や希望を伺い、担当職員のアセスメントを基に全職員で検討し、計画作成担当者が介護計画を作成している。必要に応じて医師や看護師の意見を聞いている。	利用者、家族の意向を反映させ、介護計画は担当職員・介護支援職員(管理者)、必要に応じて主治医・看護師とも相談、全職員で検討して3ヶ月毎に介護計画を作成し、家族の署名捺印を得ている。状況に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、SOAPの書式を活用している。ご本人様の日々の様子や会話など、主観的、客観的に記録し、原因や背景などから、問題の根拠を見つけ出し、介護計画の策定につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物、外食等の希望があった時には、その都度、要望に応じられるよう努めている。希望や要望など伝えられない方には、気持ちを汲み取り、希望に応じられるよう努めている。現在は新型コロナウイルス感染予防対策の為、買い物や外食支援は行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、当事業者のお祭りに地域の方々を招いている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、行事等の参加はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に、ご本人様とご家族様に伺い、希望するかかりつけ医となっている。毎月2回、かかりつけ医による在宅診療を行っており、必要に応じて通院介助や他科受診の支援も行っている。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援を行い、家族の付き添いが基本であるが、必要に応じて職員が同行や送迎支援も行っている。法人母体の医療機関から月2回内科と整形外科の医師が往診に訪れ、週2回看護師による健康相談も行って、適切な医療を受けられる環境下にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師長には、週2回の訪問の際、ご利用者様の健康管理等を気軽に相談ができる関係性ができており、状態の変化に応じた支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人様の支援に関する情報を医療機関に提供し、お見舞いの際は、病棟看護師と情報交換している。入院先が同法人の病院であれば、毎週の健康相談で看護師長に、ご本人様の最新の情報を聞き、退院支援等に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の気持ちを大切に、ご家族様と話し合い、契約時に事業所の重度化及び看取りに関する指針等を説明し、グループホームでの看取りか、医療機関での看取り、どちらを希望されるか意向を確認している。また、ご本人様・ご家族様の状況変化を踏まえ、1年毎に話し合い、安心して終末期を過ごして頂けるよう取り組んでいる。	契約時に利用者・家族に重度化及び看取りに関する指針について説明し同意、確認を得ている。又毎年、急変時対応の意向確認書で利用者、家族の意向を確認し、内容もその都度見直し反映させている。事業所として看取りは可能で職員は研修に参加して知識を身につけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時には、日中・夜間共に対応できるように、緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知している。AEDを設置し、年1回、使用方法の訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害備蓄品も整備し、災害に備えている。日中に、夜間を想定した地震火災避難訓練や水害避難訓練を消防署員、市役所防災課職員立ち合いの下、行っている。また、近隣住民や町内会にも回覧版で事前に連絡し、参加して頂いているが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、職員が中心となり、利用者様にも参加して頂いている。	年2回夜間想定避難訓練を実施している。通常は消防署・自治会住民等の参加の下行っているが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、消防署に事前に相談した上で職員と利用者だけで避難訓練を行った。又、石狩川の氾濫を想定した水害避難訓練も行い避難先は同じ法人内の老健としている。各災害を想定したシミュレーションに基づき訓練を行っており、職員の防災意識も高い。食料・水・乾電池・懐中電灯・ガスコンロ・ポータブルストーブ等を備蓄している。	冬場の停電を想定した暖房の十分な確保や大雪による移動困難時のシミュレーションなど、冬季の災害対応について検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や、生活歴などを把握し、誇りやプライバシーなどを損ねることのないような言葉かけや対応を心掛けている。ユニット会議などで話し合いの機会を設け、職員間で情報を共有し、日々のケアに繋げるようにしている。	利用者一人一人の人格や個性を大事にしつつ、寄り添う中で一日一日の様子をしっかり受け止めることを心がけている。外部研修に参加し内部研修も行って支援に活かしている。その人らしさを大切に名前の呼び方にも配慮している。個人情報、薬と共に事務室の戸棚に施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者様の嗜好や希望などを把握し、その都度伺い自己決定できるよう働きかけている。自発的に伝達しない方には、複数の選択肢を提案し、問いかけに対して意思を伝えて頂いたり、表情や行動、ご家族様に情報を頂くなど、ご本人様が決める場面を作っている。		

英生会 グループホームゆめみの 1階たんぼぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事時間等、ご本人様の生活習慣や日課、意向、その日の体調や気分を尊重し、1人ひとりの希望に添った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は、ご自分で選びやすいよう声掛け等を工夫している。ご自分で鏡を見ながら髪を整えたり、ご本人様らしい装いや、身だしなみが保てるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの食べ物を考慮し、一緒に献立を立て調理するなど、美味しく食べて頂けるよう努めている。季節ごとの行事食に旬の食材を使用するなど、目で見ても楽しく食事できるよう支援している。	献立は職員が交替で作成し、調理は利用者の好みを聞きながら柔軟に対応している。料理の下ごしらえや食器の拭き取りなど簡単な作業を手伝う利用者もいる。菜園で採れた野菜や四季を意識した季節の食材を使用し、夏にはかき氷も提供し、利用者と職員が2人でラーメンや寿司を食べにに行ったり利用者の要望を聞いて、外食や店屋物も楽しむ機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量をチェック表に記載し、1日の摂取状況を把握している。足りない方には補食や好みの飲み物を提供し、栄養・水分確保に努めている。一人ひとりの習慣や、摂取状況など状態に合わせて、とろみやゼリーを作り、食事、水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛け、または口腔ケアを行っている。歯科医師の往診で口腔衛生に関する助言を頂いたり、定期的に歯科衛生士が訪問し口腔ケアを行っている。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、歯科衛生士の定期訪問は中止している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使用し、羞恥心に配慮しトイレの声掛けを行っている。立位保持困難な利用者様にも、日中はトイレに座って排泄して頂けるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、プライドに配慮したさりげない声かけでトイレに誘導している。パルーン使用者1名以外は自立排泄が可能であり、自発的に問題なく排泄できる。能力に合わせてパットの使用もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給には、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れるようにしている。体操や歩行運動で身体を動かす機会を設け、医師に相談の下、内服薬(下剤)を調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や回数等は決めず、一人ひとりの健康状態や気分等に合わせ、入浴時間や入浴剤などを選択して頂き、楽しく入浴できるよう努めている。希望がある際は毎日でも入浴して頂けるよう支援している。	週に2回以上を目安に、希望を聞きながら好きな時に好きな回数、入浴支援をしている。一人ずつ湯を入れ替え、好きな入浴剤を選んでもらい、職員と会話を楽しみながら楽しい入浴になるように心がけている。入浴に消極的な利用者には声かけの方法を変えるなど様々な工夫しながら対応している。利用者の意向を聞き同性介助になるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や活動状況に応じて、適度に休息が取れるよう支援している。眠れない利用者様には、温かい飲み物を提供し、ゆっくり話を聞き、安心できるよう努めている。		

英生会 グループホームゆめみの 1階たんぼぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬情を処方される度に確認し、一人ひとりの服薬内容を把握している。薬の変更や臨時薬処方時には、看護師長に注意事項を確認し、症状の変化がないか観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を踏まえ、家事や趣味活動(歌や編み物など)を継続して行えるよう、環境を整えている。又、ご利用者様の好みに合わせ嗜好品を楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の習慣、希望などその日の状況に合わせて、お花見や紅葉狩り等、四季を感じる事ができるようにしている。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、天気の良い日に希望を聞き、庭の花畑を見たり、事業所周辺を散歩している。	花見や紅葉見物など、季節を感じる事ができる外出支援を行っている。周辺の散歩や玄関前にあるお地藏さまにお参りしたり、家庭菜園を楽しんだり、庭の山ブドウの収穫を楽しんでいる。家族と一緒に墓参りや、自宅への外泊支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご本人様、ご家族様とよく話し合い基本的には事業所で管理しているが、希望される場合は、同意のもとご本人様が所持している。事業所前の自販機でジュースを買って頂いたり、買い物の際は、支払いをして頂いている。現在、新型コロナウイルス感染防止対策の為、買い物は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて、日常的に電話を取り次いだり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、時々に合わせて照明の光の色を変えたり、温湿度計を見ながら温度を調整したりと個々の利用者様が心地よく生活できるよう配慮している。又、季節毎にフロアや廊下の装飾を変え、季節感を感じ心穏やかに過ごせるよう工夫している。	共有空間の照明や採光など利用者が負担にならないように気をつけている。壁や天井には、利用者・職員が共に工作した飾りものや写真が飾られ、季節を感じることができる。利用者が個人的に花をもらった時には居室ではなく共用空間に飾り皆で楽しむようにしている。利用者はラジオ体操をしたり、歌やしりとり、レクリエーションやぬり絵を楽しんだりして思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、好きな時に1人になれる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約の際に、入居の持ち物等についてご本人様やご家族様へ、使い慣れた家具や、馴染みの物を持ってきて頂くよう伝え、居心地よく過ごして頂ける様になっている。ベッドは今後、重度化した時の事を考えレンタルベッドを使用している方が多い。	使い慣れた家具等が持ち込まれ、壁には、絵や作品、家族の写真飾って家庭からの日常の継続性を感じさせている。家具などは以前から使っている物を持ち込んでいるが、ベッドはレンタルが様々な点において便利でほとんどの利用者・家族が選択している。床にはカーペットが敷かれ、あたたかみを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を分かりやすいように工夫したり、ご本人様やご家族様と相談し、居室内を安全に移動出来るよう、動線を考え家具等を配置している。		